

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 21 日現在

機関番号：32688  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2009～2011  
 課題番号：21520209  
 研究課題名（和文）『経国集』の総合的・領域横断的研究

研究課題名（英文）

研究代表者

津田 博幸（TSUDA HIROYUKI）  
 和光大学・表現学部・教授  
 研究者番号：80318708

研究成果の概要（和文）：『経国集』対策部の諸写本の写真・コピーを全て入手し校訂本文を作成した。その上で「対策」全 26 首の注釈をほぼ完成した。合わせて、「対策」をベースにして、古代文学・思想・文化・宗教・古代史などに新たな光を当てる領域横断的研究に着手し、現在、各メンバーが論文を執筆中である。

研究成果の概要（英文）：Based upon our thorough survey of photocopies of the manuscript of "Taisaku-bu" of \_Keikokushu\_, we completed the revised version of the text and made annotations on all the 26 poems of "Taisaku." Also, we have started trans-disciplinary studies on ancient Japanese literature, philosophy, culture, religion, and history focusing upon "Taisaku." Now each member is writing up his/her research results in a paper.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,600,000	780,000	3380,000

研究分野：人文・社会

科研費の分科・細目：文学、国文学

キーワード：古代、漢文学、思想史、日中比較

#### 1. 研究開始当初の背景

『経国集』は、9 世紀前半に日本の朝廷の公的事業として編纂された漢詩文集である。

「文章経国」、すなわち、思想的・文学的に優れた文章は国を営む根本であるとする観念により編まれた集であり、その中に対策部が含まれている。

「対策」とは古代の高級官僚登用試験で答

案として提出された論文のことである。『経国集』対策部には 8 世紀初から 9 世紀初にかけての計 26 編の対策が収められている。

『経国集』対策は、研究対象としては以下のような価値を有する。

(1) 対策の論題は、哲学・思想・当面の政治問題などに渡り、古代日本の最高水準の知の最古の姿を見ることができる。

(2) 対策は中国の儒教系の古典から学んだ概念・思想を主に活用しつつ、仏教・老荘思想も取り込んでいる。それらを受容し、かつ日本的にアレンジした上で独自の思想が形成されている。その意味で、古代日本における最も国際的かつ超領域的な知的所産だと言える。

(3) 対策は主に中国古典の由緒ある典拠に基づく語句を用い、対句を多用した美文として書かれている。つまり、思想を表明した論文であると同時に、古代に独特の文学作品でもある。

以上を要するに、『経国集』対策は、独自の思想的・文学的アマルガム（合金）とも呼ぶべき世界を形成しており、その世界はそれ自体として研究・解明される必要があると言える。

『経国集』対策の代表的な先行研究としては小島憲之氏による研究がある。ただし、それらは氏の著書『上代日本文学と中国文学』『国風暗黒時代の文学』等に、個々の対策が簡潔な注釈とともに「文章史」の資料として分散して引用されるにとどまっており、対策全体が自体独自の世界を持つものとして解明されているとは言い難い。かつ、小島氏の前にも後にも小島氏を越える研究は発表されていない。これが研究開始当初の状況であった。

なお、本研究の研究代表者・研究分担者・連携研究者・研究協力者らのグループは、すでに1999年4月から2008年3月まで、ほぼ月一回のペースで、『経国集』対策部を輪読する形式の研究会を行い、『経国集』の対策全26首の基礎的注釈作業を終えていた。ただし、この研究会は、対策一首を複数名で分担して各自が部分的にレポートする形式であり、レポートの方法・レベルにばらつきがあり、まとまった注釈を成してはいなかった。よって、このときのレポート資料を統一的な

視点から洗い直し、注釈としてより正確で整備されたものにする必要があった。

## 2. 研究の目的

本研究では、以下のような諸項目を具体的な目的とした。

(1) 『経国集』対策部の諸本の写真・コピーを収集、校合し、校訂本文を作成する。

(2) それぞれの対策がどのような典拠による語句を用いているか、その調査をもとに文意を確定する注釈を行う。

(3) 典拠となった中国古典（儒・仏・老荘、および、主に六朝時代の中国古典文学）と対策を、表現・思想内容などの観点から比較検討し、日本古代における内面化の度合いを測る。

(4) 『経国集』対策を日本思想史・文学史の中に定位し、その影響を明らかにする。

(5) 以上の研究成果を、『経国集』対策の本文・訓読・注釈と研究論文を合わせた書籍として出版する。

## 3. 研究の方法

先述のように、『経国集』対策は、中国古典文という古代の日中両国にまたがる国際言語を用い、かつ（現代から見れば）思想・宗教・文学という複数の知的ジャンルを横断するところに成り立った言語表現であり、複雑な研究対象である。よって、その表現、内容、他テキストへの影響の解明のためには、古代日本で書かれた諸テキスト、およびそれらが参照した中国の諸テキスト群が網目状に交錯し合う言葉の世界の網目一つ一つを辿り、間テキスト的に生成する表現の形と意味を解明する必要がある。それは地道な注釈作業によるしかないが、それこそが本研究のとった方法であった。

本研究では、そのために、漢文・漢詩、史書、和歌、物語、および、中国古典文学、老荘思想、日中比較思想・比較文学、古代日本

仏教史などの専門家 20 名による学際的な共同研究組織を作り、地道な注釈作業と多角的な研究展開を行った。

#### 4. 研究成果

2009 年度は、『経国集』対策の注釈作業のための研究会を計 17 回開催した。一人一首の対策を担当し、底本翻刻・校異・本文整定・書き下し文作成・(典拠に基づく)語釈・現代語訳により構成した原稿を作成し、その原稿に対して、複数のコメンテーターと研究会参加者(研究分担者・連携研究者・研究協力者)全員が批評・討議し、計 14 首の対策の注釈原稿の検討を行なった(長文の対策の場合、1 首の検討に 2 回の研究会を要した)。

並行して、各地の図書館等に所蔵されている『経国集』対策部の主たる写本・版本 49 種の内、32 種を収集し、コピーをメンバーで共有した。

2010 年度は、注釈作成のための研究会を計 14 回開催し、計 12 首の対策の注釈原稿の検討を行ない、昨年度と合わせて、『経国集』対策全ての注釈原稿の素案が成った。

注釈作業とは、たとえば次のような調査・操作を行うものである。

慶雲四年(707)9月8日、百濟倭麻呂(くだらのやまとまる)に対して発せられた問いは人材を適切に登用する方法について問うものだったが、その冒頭は以下のように書かれている。

問。数歩之内、空流蘭蕙之芳、  
十室之中、独伏麒麟之檻。

(訓読) 問ふ。数歩(ぶ)の内、空しく蘭蕙(らんけい)の芳を流し、十室の中、独り麒麟の檻(れき)に伏す。

「数歩」以下が 4 字プラス 6 字の対句になっている。このように字数を整え、対句を多用する装飾的・技巧的な文章であることが対策文の特徴である。これで、1 行目

は「ごく狭い場所にも未だ登用されず才能を生かせないままの賢人がいる」、2 行目は「小さな村にも傑出した人材が雌伏している」の意を表す。「蘭蕙」「麒麟」はいずれも登用されずにいる人材の比喻である。

そのように文意を確定できるのは、ここで使用されている語句が、由緒正しい中国古典の語句を引用またはアレンジしたものであり、その引用元(典拠)ですでにそのような比喩的な意味で用いられているからである。

この対句の生成には、以下のようなテキストのネットワークが関わっている。

まず、『論語』「公冶長」に「子曰、十室之邑、必有忠信如丘者焉」とある。「家が 10 軒しかないような小さな村にも自分のような「忠信」の者が必ずいるはずだと孔子が語った、の意である。

これを受けて、中国の正史『後漢書』の「王符伝」に記載された王符の「実貢篇」という、人材の適正な登用を主張した文章に「十歩之間、必有茂草。十室之邑、必有忠信」とある。対句の後半は『論語』の要約で、それを踏まえて前半を読めば、前半も同趣旨で、「茂草」が賢人の比喻であることがわかる。この対句は、対策の問題文の「数歩」と「十室」を対にしたところとよく似ているが、問題文の方がより複雑である。

さらに調査すると、同じく正史『晋書』の「禮志上」に記載の皇帝の詔勅の中に、「耕藉止於数歩之中、空有慕古之名」と見える。これは皇帝が儀礼的に自ら耕す田の面積が「数歩之中」にとどまることを述べていて人材登用がテーマではないが、表現の形はよく似ている。おそらく、問題文はこの文章から形だけを借りて、意味を転換したのである。

このように対策の文章は、諸テキストの網

目状の関係の中で形と意味を生成する。注釈作業には、その膨大な言葉の海の中に手がかりを求めて言葉一つ一つを辿ることが要求されるが、本研究はそのような作業を完遂した。

なお、この作業のために、科研費により研究会用小型パソコンを購入し、『四部叢刊』『四庫全書』等の漢籍の電子テキスト版をインストールし、典拠調査に活用できたことは有益であった。

また、2010年度には、『経国集』対策部の主たる写本・版本 49 種の内、前年度に収集できなかった 17 種を収集し、全ての写本の写真版収集が完了し、十全な校合が行えるようになった。

2011年2月から、『経国集』対策を主たる対象または出発点として、古代日本の文学・文化・政治・思想・宗教などについての領域横断的研究を目指し、メンバー各自が個別テーマを設定、研究して発表する活動に移行した。

2011年度は個別テーマによる各自の研究と研究会での合同の検討を進めた。研究会は計6回開催し、計11人の口頭発表と討議を行った。

それぞれのテーマを挙げると以下のようになる。

- (1) 儒教的宇宙観と桓武天皇の治世
- (2) 対策における「今」
- (3) 対策と「十七条憲法」
- (4) 対策に見る道教・儒教の優劣
- (5) 対策と礼制改変
- (6) 対策に見る「郊祀」思想
- (7) 対策における新羅意識
- (8) 対策と物語の「文・武」観念の比較
- (9) 対策と『古事記』における「信」観念の比較
- (10) 対策と『万葉集』における「忠・孝」

## 観念の比較

### (11) 対策と『源氏物語』の周公旦像の比較

対策は天皇の問い（策）に対する臣下の賢人の回答（対）である。上記の個別研究群で全体として明らかになったのは、『経国集』対策は古代日本における「天人相関思想」の具現化という面が大きい、ということである。

天人相関思想とは儒教の神秘思想で、漢の時代に一般化した、王の治世と宇宙の状態が呼応していると考えられる思想である。王の行すべき善政は宇宙の秩序原則に即していなければならず、そのような善政が行われていれば宇宙・自然は順調な運行を続け、人間に恵みをもたらし続けてくれる。一方で、王が悪政を行えば、宇宙・自然の秩序は乱れ、天は王への警告として災害をもたらす、と考えるものである。

この思想は、『日本書紀』の崇神天皇条、『続日本紀』に収められた詔勅類など、古代の天皇を巡る諸言説の中に見られる。

たとえば(1)の「儒教的宇宙観と桓武天皇の治世」というテーマが成り立つのはそのような思想的背景による。

これらの研究によりもたらされた知見の代表的なものを細目化して挙げると以下のようになる。

第一にわかったのは、そのような王と宇宙の関係を巡るテーマがくり返し論じられ、古代の宮廷エリート達の間で内面化していただろう、ということである[(1)(2)の発表など]。

第二に、このように対策において内面化された思想が、宮廷の祭祀・儀礼という象徴システムの改変に影響を与えていることがわかった[(5)(6)の発表など]。

第三に、対策は、新羅との外交、内乱への対処といった現実の政治過程にも対応してい

ることがわかった ((7) (8)の発表など)。

第四に、『万葉集』や『源氏物語』といった文学テキストにも対策で内面化された思想が流れ込んでいることがわかった。

以上のように本研究を通して、豊かな知見がもたらされつつあるが、これは、対策の注釈的読解という地道な作業があつて初めて可能になったものである。

現在、各メンバーは、以上の成果としての注釈書と論文の原稿を執筆中である。

## 5. 主な発表論文等

現在、全員で書籍刊行の準備中であり、個別に発表された成果はない。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

津田 博幸 (TSUDA HIROYUKI)  
和光大学・表現学部・教授  
研究者番号：80318708

### (2) 研究分担者

佐藤 信一 (SATO SHINICHI)  
白百合女子大学・文学部・教授  
研究者番号：20255938

遠藤 慶太 (ENDO KEITA)  
皇學館大学・史料編纂所・講師  
研究者番号：90410927

### (3) 連携研究者

佐野 誠子 (SANO SEIKO)  
和光大学・表現学部・准教授  
研究者番号：80359827

山口 敦史 (ENDO KEITA)  
大東文化大学・文学部・准教授  
研究者番号：60280244

### (4) 研究協力者

市田悟 一色知枝 稲生知子  
遠藤慶太 奥田和広 木下綾子  
笹生美貴子 布村浩一 保坂秀子  
三品泰子 村本春香 本橋裕美  
山田純 湯浅幸代 尤海燕